

オルビス、音楽の力による震災復興活動をサポート ～継続的な被災地支援活動「いつもプロジェクト」を開始、仙台フィルハーモニー管弦楽団を支援～

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、社長:高谷成夫)は、東日本大震災で被災された方々への継続的な復興支援活動として「いつもプロジェクト」を立ち上げ、その第一弾として公益財団法人仙台フィルハーモニー管弦楽団(事務局:宮城県仙台市、理事長:幕田圭一)による「音楽の力による復興センター」事業を支援します。

「音楽の力による復興センター」事業は自らも被災者である仙台フィルハーモニー管弦楽団が、ボランティアでコンサートを開催し、被災地域に最上の生の音楽を直接お届けすることにより、地域再生のための希望の灯を灯そうとするものです。音楽の力を信じて献身的に活動する姿にオルビスも共感し、「いつもプロジェクト」で積み立てた基金からの資金面でのサポートを始め、歌手を招いてのオリジナルチャリティコンサートを開催しその収益金を寄付するなど、積極的な支援を行っていきます。



6月2日に仙台市常盤木学園高等学校内シトラウスホールで行われたボランティアコンサートの様子

オルビス「いつもプロジェクト」について

オルビスはこれまで東日本大震災の被災地に向け、義援金の寄付や支援物資のお届けを行ってきましたが、今後はお客さまと一緒にあってより継続的な支援を行うべくこの「いつもプロジェクト」を始めました。この活動名には、日々の暮らしの質を高めるブランドを目指してきたからこそ、被災された方のかげがえのない日常を取り戻すお手伝いがしたい、という想いが込められています。

具体的には、「いつもプロジェクト基金」を社内に開設し、そこにスキンケア商品1点お買い上げにつき10円を寄付する、あるいはお客さまがお持ちの商品券・ポイントを寄付していただく、また復興支援商品を販売しその売上金の一定割合を寄付する、などして積み立て、復興に向けた寄付または支援活動に充てるもので、本年6月からスタートしています。

オルビスは、2005年からお客さま満足向上のため、全国各地でコンサートを開催しご招待したお客さまにキレイな時間をご提供してきました。また、2009年からはCSR活動の一環として、経済的に厳しい状況下に置かれている地域のオーケストラと共同でコンサートを開催しています。東日本大震災の被災者に向けた物理的支援に続き、企業として継続的な復興支援活動を行い少しでも力になりたいと考えたとき、この仙台フィルハーモニー管弦楽団及び「音楽の力による復興センター」事業の活動はオルビスにとっても大変共感できるものであり、この度「いつもプロジェクト」基金からの支援を決定しました。

「いつもプロジェクト」で集まった基金については、本活動以外にも被災地域の復興のために有効に活用できるよう十分検討を重ね、今後も様々な形で継続的に寄り添う形で支援していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】(株) ポーラ・オルビスホールディングス 広報・IR室

Tel 03-3563-5540 / Fax 03-3563-5543

【仙台フィルハーモニー管弦楽団について】

本拠を宮城県仙台市に置く日本オーケストラ連盟正会員のプロのオーケストラ楽団です。設立は1973年で東日本エリアを中心に活動を展開、年間120公演以上をこなし、仙台国際音楽コンクールではホストオーケストラをつとめています。また、音楽を担当した映画「劔岳 点の記」が2010年第33回日本アカデミー賞で最優秀音楽賞を受賞するなど、幅広く活躍しています。2010年には宮城県より認定を受け、公益財団法人となりました。常任指揮者はパスカル・ヴェロ、楽団員は81名(指揮者、事務局スタッフは除く)が在籍しています。

【「音楽の力による復興センター」事業立ち上げについて】

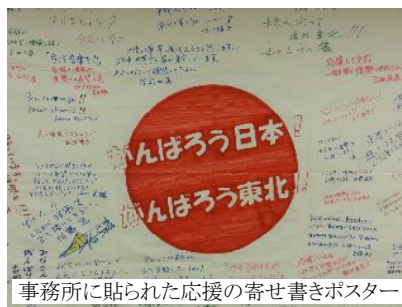
音楽には、過去の様々な災害や戦争で、傷付いてきた人々の心を癒し、勇気付けてきたことでも実証されるとおり、強い力があります。東日本大震災の発生時、仙台フィルハーモニーの楽団員はリハーサルのために集合しており楽器も含め奇跡的に無事でした。しかしながら、演奏場所である東北一円のホールが甚大な被害を被ったため、6月までの演奏会は全て中止という事態に追い込まれました。この状況下で自分たちに何が出来るかと考えた結果は、ボランティアで被災地や避難所を訪ね、演奏を直接届けることによって災害の犠牲者を鎮魂し、ご家族や日常の生活を失われた方々を癒し、再生の希望を持てるようにすることでした。そこで仙台フィルハーモニー管弦楽団の持つ音楽的・人的資産を活かし、被災者に直接音楽を届け、復興に役立てる為に設立されました。

趣旨に賛同された方に①演奏会実施の為の資金援助、②被災者が集まり易く演奏できる会場について、場所や情報の提供、などを呼びかけています。

現在までに165回もの演奏会を開催(6月21日現在)、音楽の力を核とした癒しと励ましの空間を被災地域に生み出しました。特に3月26日から5月15日までは、実家が津波で流された担当職員の発案によりマラソン形式で毎日休まずにコンサートを実施し、被災地に大きな勇気と感動を与えました。支援目的による全国からの音楽関係者からの招聘も多く、各地から熱い反響と声援が届いています。



避難所での演奏会の様子



事務所に貼られた応援の寄せ書きポスター

【その他のポーラ・オルビスグループの復興支援への取り組みについて】

- * 震災発生直後から、被災地への物的支援(ヘアケア・衛生用品、下着、食品など約20万点)、義援金(総額約8,300万円)はもとより、事業を通じた被災地支援として、3月～4月の売上合計に対する一定率相当額として約7,300万円を寄付(ポーラ)するなど、様々な形で支援に取り組んでおります。またACRO社では「THREE グラムタッチリップグロス(税込2,940円 限定発売)」の、売上1本につき1,000円を被災地の女性・妊産婦支援のために、ホワイトリボン運動(実施 NGOジョイセフ)を通じて寄付しています。
- * ポーラでは、7月より全国各地で開催する展示販売会(ポーラフェア)の各会場において、被災地特産品を販売し、産業復興を支援しています。

【オルビスの地域オーケストラ支援について】

- * より美しく、より嬉しい毎日を実現するため「よいものづくり」に取り組むオルビスは、商品以外でもお客さまの生活のさらなる充実に役立てないか・・・との想いから、2005年より内面の豊かさや美しさにつながる「音楽」コンサートへの協賛に取り組み、お客さまを無料でご招待しています。生活を潤す至福の時間を過ごしていただくとともに、2009年からは各地域の交響楽団への支援を通じて音楽普及活動に貢献しており、芸術文化の振興にもつながればと考えています。